

学校法人エール学園 2024 年度事業報告

学校法人エール学園

I 設置学校及び設置学科

学校法人エール学園は 2024 年度よりエール学園 ICT 校を開校し、現在 2 つの専門学校を設置している。

1 エール学園 所在地：大阪市浪速区難波中 3－1 3－1

設置学科と入学定員

課程	学 科	修業年限	入学定員	総定員	備考
商業実務専門課程	国際ビジネス学科【4 月生】(2 年制)	2 年	110 人	220 人	昼間
	国際ビジネス学科【4 月生】(1 年制)	1 年	20 人	20 人	昼間
	小 計		130 人	240 人	
文化教養専門課程	国際コミュニケーション学科【4 月生】(2 年制)	2 年	100 人	200 人	昼間
	応用日本語学科(2 年制)午前クラス	2 年	100 人	200 人	午前
	応用日本語学科(2 年制)午後クラス	2 年	100 人	200 人	午後
	応用日本語学科(1 年制)全日クラス	1 年	150 人	150 人	昼間
	応用日本語学科(1 年制)午前クラス	1 年	80 人	80 人	午前
	応用日本語学科(1 年制)午後クラス	1 年	80 人	80 人	午後
	日本語教育学科(2 年コース)	2 年	100 人	200 人	昼間
	日本語教育学科(1 年半コース)	1 年半	160 人	320 人	昼間
	日本語教育学科(1 年コース)	1 年	80 人	80 人	昼間
	小 計		950 人	1510 人	
	合 計		1080 人	1750 人	

2 エール学園 ICT 校 所在地：大阪市浪速区恵美須西 3－13－14

設置学科と入学定員

課程	学 科	修業年限	入学定員	総定員	備考
商業実務専門	IT ビジネス学科	2 年	60 人	120 人	昼間
	データサイエンス学科	2 年	60 人	120 人	昼間
	AI ビジネス学科	2 年	60 人	120 人	昼間
	観光ビジネス学科	2 年	60 人	120 人	昼間
	合 計		240 人	480 人	

II 2024年度の学生の在籍状況

エール学園				2024年度					
				11 月			5 月		
	学科名	入学 定員	入学 期	1年生	2年生	小計	1年生	2年生	小計
専 門 学 校	国際ビジネス学科 2 年制	110	4月	103	85	188	106	88	194
	国際ビジネス学科 1 年制	20	4月	18		18	20		20
	国際コミュニケーション学科 2 年制	100	4月	103	94	197	103	97	200
	国ビ学科・国コミ学科 小計			224	179	403	229	185	414
	応用日本語学科2年制(午前)	100	4月	108	28	136	111	29	140
	応用日本語学科2年制(午後)	100	4月	108	6	114	111	7	118
	応用日本語学科 1 年制(全日クラス)	150	4月	118		118	125		125
	応用日本語学科 1 年制(午前)	80	4月	88		88	91		91
	応用日本語学科 1 年制(午後)	80	4月	85		85	87		87
	応用日本語学科 小計			507	34	541	525	36	561
【合計】			731	213	944	754	221	975	
日 本 語	日本語教育学科2年コース	100	4月	112	136	248	116	141	257
	日本語教育学科 1.5 年コース	160	10 月	120	188	308	197		197
	日本語教育学科1年コース	80	4月	23		23	26		26
	日本語教育学科【合計】			255	324	579	339	141	480
エール学園計				986	537	1523	1093	362	1455

エール学園 ICT 校				11月			5月		
	学科名	入学 定員	入学 期	1年生	2年生	小計	1年生	2年生	小計
	IT ビジネス学科	60	4月	38	0	38	39	0	39
	AI ビジネス学科	60	4月	20	0	20	22	0	22
	データサイエンス学科	60	4月	16	0	16	17	0	17
	観光ビジネス学科	60	4月	27	0	27	28	0	28
エール学園 ICT 校計				101	0	101	106	0	106

	学園全体数					1624			1561
--	-------	--	--	--	--	------	--	--	------

Ⅲ 各学校及び学科の運営の状況

1 全体概要

2024 年度は大阪市浪速区恵美須西に新しく文理融合の専門学校としてエール学園 ICT 校を開校する。開校初年度で募集期間が短かったにもかかわらず 4 学科全体で 106 名の入学者となり順調なスタートを切ることができた。また留学生の在籍が中心となる既存の専門学校エール学園も本格的にコロナの影響からは抜け出すことができ在校生数もコロナ前の状況に戻ることができた。

各学校と各分野の学科においては、それぞれの学科の特色を生かした学科運営を実施しているが、二つのキャンパス二つの学校ともに「なりたい自分 つくす自分」を学校理念として共通に持ち、学生のボランティア活動を積極的に推進し、それが学生たちの「つくす自分」＝社会貢献できる人材の育成につながり、それが「なりたい自分」＝自己実現の積極性の獲得につながっている。またボランティアの多くが地域との共生の中で多くの活動が地域住民とともに実施し、地域振興の大きな役割を果たしていると自負できる状況となっている。

2 各学校学科の運営状況

2-1 エール学園設置学科の状況

<国際ビジネス学科 国際コミュニケーション学科>

学生の主体性を育む指導に注力する。外部との繋がりを本部全体で築き上げている。

- ① TOIEC の団体受験を学内で開始し、多角的に学生の能力を伸ばす指導を実践している。
- ② ボランティア件数は 1000 件を超え、学生全体の約 63%が自主的にボランティアに参加している。
- ③ 学生の主体性を育む教育を実践し、就職希望者の年内内定率が初めて 50%を超えた。

以上のような環境で留学生達も就職活動に奮闘しているが、内定数は対前年と同等数に留まっている。今後は 3 月卒業後の特定活動での就職活動の延長、「特定技能」ビザへの就職などの道も増やしながら、留学生就職 100%を何とか実現したいと考えている。

④ 2025 年 3 月卒業の就職状況 (2025/3/17 現在)

卒業対象者 229 名

内定者 155 名 (2 年生 138 名・4 月デビュー 17 名) ※上場企業就職者 15 名

未内定者 15 名 (2 年生 15 名・4 月デビュー 0 名)

就職希望者 170 名 (内定者 155 名) 就職率 : 91.2%

<応用日本語学科>

通常授業以外の特質すべき取り組みをあげる。プロジェクトワークでは、西成の子ども食堂への訪問や、地域の高齢者との交流、5 号館玄関への花壇の設置等さまざまな取り組みを行い、地域とのつながりを構築するだけでなく、学生に成功体験を感じさせることができた。また、年度末には府立体育会館で成

果発表会を行った。

合格実績（3月17日現在）

<大学院>

東京大学（3名）、大阪大学、北海道大学、九州大学、筑波大学、広島大学、静岡大学、熊本大学、

大学院合格者数	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
東京阪	1	2	2	0	1	4
国公立	12	14	19	5	6	7
参考：大学院コース人数	69	74	65	30	47	35

大学院コースの人数は少ないものの、過去最高の実績を出した。分野別では11名中、自然科学7名・社会科学2名・人文科学1名と、理系の強さが目立った。また、難関私大も慶応義塾大学、同志社大学、関西大学（3名）、立命館大学（4名）と9名の合格を出しているが、こちらは自然2名、社会5名、人文2名と社会科学（経済）が結果を出した。

<大学>

大阪大学、筑波大学、信州大学、奈良女子大学、岡山大学、岩手大学、福島大学、群馬大学、茨城大学（2名）、静岡大学、愛媛大学（2名）、高知大学（2名）長崎大学、鹿児島大（2名）、横浜市立大学、大阪教育大学（9名）、県立広島大学（3名）、広島市立大学、尾道市立大学、公立鳥取環境大学（3名）高知県立大学、山口県立大学、下関市立大学

大学学部合格者数	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度 (3/17 時点)
東京阪	1	2	2	2	0	1
国公立	55	45	36	34	42	39
参考：東京阪クラス人数	5	8	5	5	3	3
参考：国コース人数	66	73	52	34	39	51

2年ぶりに大阪大学学部合格者を出した。分野に関しては、理系19名、文系21名と大学院ほどの差は出ていない。大学院と異なるのは国籍である。近年の国公立コースの特徴として非漢字圏の学生が増えてきたことがある。それに伴い、今年度は合格者40名中18名が非漢字圏出身者であった。その国籍内訳はミャンマー（9名）、ベトナム（5名）、バングラデシュ（2名）、スリランカ、ラオスであった。

<専門学校>

年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度 (3/17 時点)
① 合格者数	160	190	246	130	75	196
② 参考：10月時点在校 生数	691	692	737	387	278	535
③ ①/②	23.15%	27.46%	33.37%	33.59%	26.97%	36.63%

昨年度減少した専門学校合格人数であるが、今年度は増加しており、在籍者に対する割合も過去5年のな

かで最高の数値となっている。分野としては、ビジネス系、サービス系、IT系専門学校の合格者が83%を占めており、専門学校選びの多様性はますますなくなっている。そんななか、昨年度激減した自動車系、および介護系への合格者が微増している。

＜日本語教育学科＞

① 各国の募集状況について

＜ビザ申請と交付状況＞

	2025 年 4 月		2024 年 4 月		2023 年 4 月		2022 年 10 月		2022 年 4 月	
	申請	交付	申請	交付	申請	交付	申請	交付	申請	交付
中国	40	40	42	40	32	32	41	41	20	20
韓国	3	3	4	4		6	2	2	1	1
台湾	12	12	16	15	8	8	11	11	9	9
インドネシア	8	7	9	8	9	9	20	17	13	13
タイ	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1
フィリピン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ベトナム	66	66	56	56	84	82	33	33	16	13
中国（香港）	0	0	1	1	2	2	1	1	2	2
マレーシア	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
ネパール	25	25	20	20	48	44	6	6	0	0
ミャンマー	9	9	4	4	0	0	0	0	0	0
スリランカ	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	2	0	0	1	1	2	2	0	0
総計	167	166	152	148	191	185	118	115	62	59

② 運営状況

前期はS（特進）3クラス、その他24の合計27クラスで、2023年度の1.5倍の規模での運営となった。漢字圏の学生比率が前期としては初めて30%を下回ったことが特徴として挙げられる。とはいえ、ネパール募集での人数制限・条件の厳格化、入国前教育・事前学習の成果が少しずつ出ており、ゼロ初級と判定される学生が5割以下（14名中5名）となった。他方で、中国人とベトナム人学生の入学時日本語レベルに低下の傾向が見られた。内部含めて専門学校入試の早期化が続いている中、8月までにある程度の日本語能力を身につけることが求められる状況においては入学時の日本語能力が大きな課題となっている。

後期には定員を600名に変更し、S（特進）3クラス、2Z（最上級）10クラス、2K（上級）8クラス、1Z（中級）7クラス、1K（初級）4クラスの合計32クラスで運営を行った。在籍者数もコロナ以降最多である。2023年度同様に講師手配の難しさはあったものの、定員の関係上、新入生が116名と小集団であったため、常勤講師の雇い入れと講師派遣の利用でそれほど大きな混乱もなく学期のスタートを切ることができた。

今年度は、後期になってもS（特進）のクラス数が増えることはなく、母数の少ない中で合格実績数値を目指す状況となった。ただ、幸いにもS（特進）の学生の質が高く、大学院・学部ともに大阪大学

の実績を出すことができた。今後、国公立大学・大学院の合格実績を伸ばすためには、中国を中心とする漢字圏の学生募集に力を入れる必要がある。

一般コースで特筆すべき内容としては、内部進学者の激増と私立大学合格者の国籍変化である。内部進学者数増加の要因は、明らかにネパールである。2023年4月と10月に大規模に受け入れたネパール人学生らが卒業を迎え、その多くが入学時からの希望進路であったビジネス系やIT系の専門学校、つまり内部で言えばICT校や国ビ国コミを受験することとなった。その結果、日本語教育学科から内部進学する学生が一挙に増加したといえる。私立大学合格者の国籍変化に関しては、下位の私立大学が留学生の合否ラインを下げていることが理由と推測される。専門学校を受験して不合格であった学生が大学に合格するケースも起きている。

<進路実績（3月15日現在）>

【大学院】

東京大学大学院、大阪大学大学院、北海道大学大学院、東北大学大学院、神戸大学大学院（3名）、和歌山大学大学院（2名）、奈良女子大学大学院、岡山大学大学院、上智大学大学院、法政大学大学院、京都芸術大学大学院、京都情報大学大学院（2名）

【大学】

大阪大学、九州大学、秋田大学、大阪教育大学、公立鳥取環境大学、下関市立大学、関西大学、立命館大学、京都産業大学（2名）、近畿大学（4名）、龍谷大学、札幌大学、東京工芸大学（2名）、国土舘大学、東海大学、帝京大学、東京福祉大学、京都外国語大学、大阪工業大学（2名）、大阪芸術大学、大阪産業大学（3名）、大阪経済大学（2名）、大阪観光大学（6名）、羽衣国際大学（6名）、関西国際大学（4名）、相愛大学、太成学院大学（2名）、桃山学院大学（3名）、神戸国際大学（2名）、芦屋大学（6名）、神戸医療未来大学（5名）

【短期大学】

東大阪大学短期大学部

【専門学校】

内部159名（応日63名、国ビ（デュアル含む）50名、国コミ28名、ICT校18名）、HAL大阪（6名）、大阪動植物海洋専門学校（5名）、ホンダテクニカルカレッジ関西（3名）、大阪観光ビジネス学院（3名）、清風情報工科学院（2名）、ECCコンピュータ専門学校（2名）、ECC国際外語専門学校、OCA大阪デザイン&IT専門学校、トヨタ名古屋自動車大学校、プロスペラ学院ビジネス専門学校、関西経理専門学校、大阪バイオメディカル専門学校、大阪ファッションアート専門学校、大阪情報コンピュータ専門学校、大阪総合デザイン専門学校、辻調理師専門学校、日本モータースポーツ専門学校大阪校、日本コンピュータ専門学校、南海福祉看護専門学校、日中文化芸術専門学校、奈良コンピュータ専門学校、和歌山コンピュータービジネス専門学校、専門学校穴吹デザインカレッジ、麻生情報ビジネス専門学校、能達工科カレッジ

【就職】23名（日本企業就職コース6名）

株式会社シセイサービス、ユーネット株式会社、（株）東洋クリーニング、興栄商事有限会社、WHG 関西株式会社、平川商事株式会社、エムールカンパニー株式会社、KTBI 株式会社、株式会社 MINATO GROUP、株式会社マルタマフーズ、ソニック株式会社、株式会社スカイライン、有限会社上田電機、株式会社ティオコーポレーション、株式会社シトラス、UNIBEST 株式会社、株式会社 VINE ルミエール、三耕株式会社、神戸国際流通促進共同組合、株式会社エモーション、株式会社優創、医療法人錦秀会（特定技能）株式

2-2 エール学園 ICT 校の運営状況

Ⅰ 就職活動の状況

①就職ガイダンス、学内合同企業説明会

【就職ガイダンス】

- 12/9(月)10時～11:30 株式会社アスパーク 林様
- 就職内定までの流れ、企業がどういったところを見るのか、といったこととお話しいただいた。

【学内合同企業説明会】

- 2/25(火) 13:30～15:30 東大阪商工会議所主催「中小企業と若者との交流事業」
- 8社が参加：株式会社美販、株式会社プラザオーサカ、株式会社ベジコップ、株式会社モールドサポート、光洋機械産業株式会社、藤本産業株式会社、フジ矢株式会社、リゾートライフ株式会社
- 最初に全社が5分ずつプレゼンを行い、その後ブースに分かれての交流を行った。

②インターンシップ

【必須インターンシップ(ボランティア)】

- 11/2(土)・11/3(日) 9時～17時 大阪淀川市民マラソン
- 9/10(火)10時～11時消防署による救急講習、13:20～14:30 マラソン主催者によるマラソンボランティア説明会を実施。
- 11/2か11/3の都合のいい日を選び、全学生が運営側に入ってマラソン運営をお手伝い。

③意義と課題

【就職ガイダンス】

- 「他校は1年生の11月ごろには就職ガイダンスをしていますよ」という林様のお話を伺い、急遽就職ガイダンスをしていただくことになった。
- 就職に関する内容は、やはり学校職員が話すよりも、企業の方が話す方が学生の真剣さが違っていた。
- ただ、日本人学生に合わせた内容が多く、日本語がすこし難しすぎた可能性がある。
- 今年は ICT 校初年度ということもあり、難波のキャリア支援との連携がうまくいっていなかったこともあって、就職ガイダンスを含めた年間計画が定まっていなかったことを痛感させられた。次年度はぜひに改善しなければならない。

【学内合同企業説明会】

- キャリア支援の尽力により、もともと製造業の会社だけが参加する予定だったが、観光系の会社も3社参加してくれることになり、全学生が参加することができた。
- 会社によっては、大勢の学生が押し寄せるケースも見られた。
- 学生の中には、もともと IT 会社を希望していたが、今回金型の会社の話を聞いて一番興味を持ったという者もあり、会社選びの視野が広がったように感じた。
- どのブースに行けばいいかわからない様子も見受けられたので、事前に参加企業について調べる時間があれば、もっと有効にこの説明会を活用できたかもしれない。
- 次年度以降も学内の企業説明会は頻度を上げて実施したい。

【必修インターンシップ(ボランティア)】

- 11/2は嵐のような天気で、河川敷の会場は田んぼのような状態になっていた。
- そんな中、普段はおとなしく目立たない学生が裸足になって、ランナーの登録手続きを手伝っていたのはとてもうれしかった。
- 11/2、11/3ともに主催者側の指示がころころ変わったり、事前に聞いていたことと違う状況が多々あったが、新人の職員も学生をよくサポートしてくれていた。
- やはり淀川は遠く、新今宮とは関係が薄いので、全学生が参加する必修のボランティアは地元のために行いたいと思った。
- 次年度は11月15日ごろに行われる新世界フェスに全学生がボランティアとして参加する予定になっている。

2 ボランティア、PBL、クラブ活動の状況

①ボランティア(必修ではなく、自由参加ボランティア)

- 2024年度の目標は、全学生のうち35%がボランティアに参加するというものだった。
- 結果は36%の学生がボランティアに参加してくれた。
- 一番多い学生は21回参加、2番目は10回、3番目は9回参加している。
- 次年度の目標は40%に設定している。

②PBL

- テーマ:3クラスが岸和田市の海外・外国人へのPR。1クラスが兵庫県上郡町の海外・外国人へのPR。
- 11/8と11/9:アイデアソン合宿を実施。岸和田市をテーマにした3クラスが参加。
 - ★上郡町は1クラスしか取り組んでいないため、アイデアソンでは上郡町の魅力発信をテーマにしてアイデアをぶつけ合ってもらった。どのクラスも思った以上に上手にまとめていた。
 - ★初めての合宿だったが、トラブルもなく無事終えることができた。学生たちの結束力が高まったのを強く感じた。
 - ★引率は講師3人、職員4人。
- 11/22と11/23:上郡町での現地調査、11/23の白旗城祭りに参加。
 - ★現地調査では最後に上郡町長との交流の時間をいただいた。町の期待を強く感じた。
 - ★白旗城祭りは、現地の特産である厚紙でできた甲冑を着せていただいた。若者の参加とあって、現地の期待を強く感じるとともに、学生たちも現地の歴史や文化を体感できた。
 - ★引率は講師1人、職員2人。
- 11/29:岸和田での現地調査
 - ★講師3人、職員4人が引率して実施。
 - ★岸和田城とだんじり会館の入場料は学校が負担。全学生が岸和田の観光資源を体感した。
- 2/21:PBL発表会
 - ★岸和田からは、岸和田市との間に入ってくださった、KIX泉州の榊元さんと増田さんが来校くださり、岸和田市についての発表を聞いてくださり、講評をしてくださった。
 - ★上郡町は観光協会・トラポルの柴辻さんが来校、上郡町地域振興課の岡田さんがZOOMで発表を聞いてくださり、講評をしてくださった。

③クラブ活動

- ゲームクラブ、ロボット開発クラブ、日本文化クラブを実施。
- それぞれ顧問講師を置き、月曜日の 13:20～15:00 で実施している。

④意義と課題

【ボランティア】

- ICT 校は自由参加のボランティアに参加している学生が、かならずしも出席率が高く、モチベーションが高いわけではないことが分かった。
- ボランティア参加回数の多い上位 5 人は、2 人を除き 3 人はいろいろとトラブルを起こしており、そのうち 1 人は出席率不良のため 3/31 で退学する。
- あまり深く考えず、いろいろなことにチャレンジしたい学生がボランティアにどんどん応募してくれる感強い。それはそれでいいことなので、その姿勢をいい方向に向けられるようにしたい。

【PBL】

- PBL と言いながら、実際は先方から依頼された課題に取り組むこととなった。とはいえ、今年は ICT 校の 1 年目なので、地域の方と交流しながら課題解決を模索できたのはいいことだった。
- 岸和田と上郡はもう一年取り組むが、そのあとはできるだけ地元に近い地域の課題解決に取り組みたい。

【クラブ活動】

- 今年は 1 年目ということもあり、4 月の開始時期になかなか方向が定まらず、クラブ参加希望者が減ってしまった。その結果クラブに参加する学生も 10 名程度になってしまった。
- それぞれのクラブに継続的に参加している学生たちは、とても楽しそうに参加している。
- 10 名程度しかいないためデータで証明するのは難しいが、出席状況や授業への取り組み方は比較的良好。

以上